



2010・春号

"あいのかぜ"は、男女共同参画社会の実現に向けて、市民一人一人が男女共同参画に関する正しい理解と認識を深めることを目的に、公募市民3人からなる編集委員によって企画・編集された情報交流誌です。

編集 男女参画・ボランティア課 (〒930-8510 あて先の所在地不要) ☎443-2051 FAX443-2176
【Eメール】danjyo-volun@city.toyama.lg.jp

特集：身近なところから男女共同参画

はじめの一步

～この一言、あなたはどう思いますか？～ Part2

「男女共同参画社会」とは言っても、何から始めていいのかわからない……。普段の生活の中にも、男女共同参画社会を考える出来事がたくさん眠っています。「あいのかぜ」vol.28に引き続き、みなさんの周りで何気なく見られる日常の一コマを掲載します。あなたはこの会話についてどう思いますか？

ある家庭での夕方の一コマ

食卓で宿題をしている娘に

「食事の準備、手伝って。」

と母が言いました。

「私は宿題しているの。私にばかり言わな

いで、お兄ちゃんにも言ってよ。」

母は、

「お兄ちゃんは男でしょ。」

あなたは女の子なんだから。」

このとき、娘は何を感じたと思いますか？



性別役割分担意識

「男は外で働き、女は家庭を守るべきである」といった慣習や考え方は、誰が決めたのでしょうか。

この性別役割分担意識は、一昔前に比べると薄れてきていますが、まだまだ人々の意識の中に残っているのが現状です。

お互いを思いやり、尊重し、協力し合いながら家庭を築いていくことが大切です。

みなさんの
声をお待ち
しています。

「あいのかぜ」vol.28において掲載した「はじめの一步～この一言、あなたはどう思いますか？～」には、「改めて考えさせられた」や「はっとさせられる内容だった」、「読む人の年代によって、さまざまな感じ方・とらえ方があると思う」といった、たくさんのご意見・ご感想をいただきました。ありがとうございました。

今後とも、多数のご意見・ご感想をお寄せください。お待ちしております。

日本女性会議2008とやま メモリアルフェスティバル

平成21年12月20日(日)、【ささえあって生きる～今、私たちにできること】をテーマに「日本女性会議2008とやまメモリアルフェスティバル」が開催されました。当編集委員も記念講演、分科会に参加し、男女共同参画の現状と課題を学びました。

記念講演 「新しい時代を創る新しい女性の役割」

講師 なかの ひろみ 中野裕弓さん(カウンセラー・NPO 法人スペシャルオリンピックス日本 専務理事)

これまで女性は自分を犠牲にしても人のため、家族のために働くのが美德だと思われ、また、そのように教えられ、生きてきました。しかし、「私さえ我慢すれば…」の延長線上に「愛」はありません。まず、自分に幸せを与えましょう。自分が楽しくなりましょう。そうすれば誰にでも幸せを振りまくことができます。

これまでの女性は「女性らしさ」を捨てて、男性社会の中で頑張ってきましたが、これからの時代、「女性らしさ」が必要となります。新しい時代の変化は、女性の方がキャッチしやすいと思います。女性にはいくつものことを同時にこなす能力と柔軟性があるのですから。

したたかに、そして、しなやかに…「ありがとう」「感謝します」そういう何気ない一言を忘れずに生きていきたいと、この記念講演に参加して思いました。
えちぜんれいこ (越前玲子)



第1分科会

即興劇「ワーク・ライフ・バランス」 ～今こそ「働き方」「生き方」を変えてみよう！～

仕事は暮らしを支え、生きがいや喜びをもたらすものですが、同時に家事や育児、近隣との付き合いなどの生活も暮らしに欠かすことができないもので、その充実があってこそ、人生の生きがい、喜びは倍増します。つまり、仕事と生活の調和が必要となります。しかし、実際は仕事につけなかったり、仕事と子育て、親の介護で悩んだり、仕事と生活の間で問題を抱える人が多く見られます。



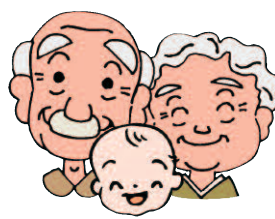
第1分科会では、参加者の中で、仕事中心でこのままでいいのかと悩む人や、仕事と子育ての両立で悩む人が過去の記憶や現在の状況を語り、それをもとに即興劇が演じられました。「当事者の悩み」を他の参加者が自分自身のこのように共感し、さらに自分の働き方・生き方についてさまざまな発見をした分科会でした。
やまざきひろゆき (山崎弘行)

第2分科会

パネルディスカッション「子育てと介護」 ～富山の未来へ いのちつなごう～

この分科会で「子育て」と「介護」とは、ひとつの課題であるということを知られました。これは私にとって大きな収穫でした。

「“老い”によって、人は、関わる事柄が次第に少なくなり、他の人々との接触も少なくなっているのが現状である。また、現代は“いのちの尊さ”を見失い、子どもが死を見なくなっている。」との説明がありました。同時に、スライドで子どもと接している高齢者の笑顔が映されました。その笑顔が“人と人との結びつきの大切さ”を雄弁に示していたように思います。



男性も女性も、高齢者も子どもも、皆がお互いに相手を尊重する気持ちを大切にすることで、地域の活性化があるのかも…と痛感した有意義な分科会でした。(鳥羽隼子)

第3分科会

パネルディスカッション「チャレンジ！これからの女性」 ～アクセルとブレーキ～

富山県の女性は、47都道府県中、大学などへの進学率11位、共働き率3位で「よく学び、よく働く」というデータがあります。その反面、女性の管理職に占める割合は、まだまだ全国平均に追いついていないのが現状です。結婚や子育て、介護を機に多くの女性が仕事を辞めているのです。自分で辞めることを選択した人は、それはそれで尊重しなければなりません。が、やむを得ず辞めてしまう人もいるとのことでした。

女性に対する社会参画の制度、つまりアクセルは整っていますが、子育てや介護などがブレーキとなっています。

男性も女性も、仕事にとってハードルとなるから子育てや介護はしないのではなく、子育てや介護が大事なら子育て、介護を優先して、仕事のペースを落とすこともできます。つまり、後悔しない方を選んでいけば自分のよさを社会の中で発揮できるのではないかと考えさせられた分科会でした。(男女参画・ボランティア課職員)



男女共同参画社会づくり作文コンクール

男女共同参画社会の実現に向けた意識を高めるため、市内の中学生を対象に男女共同参画に関する作文を募集したところ、112点の応募がありました。

【最優秀賞】^{もり ゆりこ} 森 裕梨子さん(呉羽中学校 3年)

【優秀賞】^{さいとう みゆ} 斉藤未侑さん(新庄中学校 1年)、^{にしもり かえで} 西森 楓さん(奥田中学校 3年)、^{やなせ おいたにたかゆき} 柳瀬かなえさん(堀川中学校 3年)、^{おいたにたかゆき} 追谷貴之さん(呉羽中学校 3年)

応募いただいた皆さん、ありがとうございました。
優秀作品の中から最優秀作品を紹介します。



「山越え谷越え！男女共同参画社会」

呉羽中学校 3年 森 裕梨子

近年、女性が社会進出を果たし、外で働くようになりました。そして、一昔前のような『男は外で仕事、女は家で家事』という考えが少なくなってきました。そうになると、以前まで家事をしていた女性が働きに出るため、必然的に女性がそれまでしていた家事を夫婦で協力してやらなければいけなくなります。

私の家も父と母が共働きです。会社で働くというだけあり、二人とも遅くに帰宅してぐったりとしています。しかし、お互い励まし、助け合いながら協力して家事をしています。小さなことですが、これも男女共同参画社会づくりの一步だと思います。

そして、男性にも女性にも得意なことと不得意なことがあると思います。そこで、お互いの長所を生かして仕事をすることは、とても大事なことだと思います。実際に、私の家でも、料理が得意な母は食事の用意、器用な父は

洗濯と掃除、という風にして能率よく家事をこなしています。しかし、始めから上手くいったわけではなく、「仕事で疲れているのに、これ以上負担はかけられない」と父を思った母は、一人で仕事と家事の両立をしていました。ところが、それは長く続かず、母は体調を崩してしまいました。それからの父は、大変そうな母をサポートするようになり、現在のように家事を二人で分担、という形になりました。つまり、男女共同参画社会とは相手のことを思いやって成り立つものだと思います。

近頃、政治の話をよく耳にするようになりましたが、女性議員の方が少ないと思います。男性、女性がお互いの意見を平等に聞くことで、よりよい考えが生まれるかもしれません。この国をよりよくし、国民が笑顔で過ごせるようにするためにも、男女共同参画社会づくりをどんどん進めていくべきだと思います。

富山市がめざす「男女共同参画社会」とは？

男女が互いにその人権を尊重し、喜びも責任も分かち合いながら、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会に向けて、本市では「富山市男女共同参画プラン2007－2016」の中で、以下の3つの推進目標を定め、それに基づき施策を進めています。

目標① 意識を変える、権利を守る

目標② 能力を活かす、可能性を育てる

目標③ 家庭で支える、地域で取り組む

今回は、推進目標の一つである【能力を活かす、可能性を育てる】を実現するための施策を紹介します。

●「女性人材リスト」を作成しています

プランでは、本市の審議会・委員会への女性委員の登用率を、平成23年度までに30%にすることを目標としていますが、平成21年4月1日現在、24.1%にとどまっています。そこで、審議会・委員会などの委員の人選にあたって、情報を提供するための「女性人材リスト」を作成し、女性の参画を推進する働きかけを行っています。現在、リストには103人が登録されています。自薦・他薦は問わず、富山市を拠点として各分野で活躍する女性の方々の情報提供をお待ちしています。

《編集後記》

- ・「幸せになるためには何が必要か」をイメージできれば、人は誰でも幸せになれるはず。まずは自分が幸せに。(越前玲子)
- ・“男女共同参画”って決して難しいことじゃありません。“相手を尊重する気持ちが大切な基本”だとおなずいています。(鳥羽隼子)
- ・編集後記まで読んでいただいた方のご意見をお待ちしています。(山崎弘行)